

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
平成 26 年 7 月 29 日

「ふさおとめ」の成熟期は8月12日からと予測 「ふさこがね」「コシヒカリ」の成熟期も例年より早い予測 成熟期直前までの適切な水管理と適期収穫を

[生育概況]

7月に入り、気温は平年並～やや高めで推移しました。全体的に生育の進みは早く、出穂期は早生・中生品種は2～3日程度、また、晩生品種は3～5日程度早くなりました。

成熟期は「ふさおとめ」が8月12日頃から、「ふさこがね」が8月16日頃から、「コシヒカリ」が8月21日頃からと予測されます。

表 1 品種別の生育進度と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日頃	やや早	8月14日～	8月12日～	8月12日～	8月12日～
ふさこがね	4月20日頃	やや早	8月20日～	8月18日～	8月18日～	8月16日～
コシヒカリ	4月20日頃	早	8月27日～	8月24日～	8月22日～	8月21日～
	5月1日頃	早	8月31日～	8月28日～	8月27日～	8月26日～
ふさのもち	4月20日頃	やや早	-	-	8月25日～	-
	5月10日頃	やや早	9月3日～	9月2日～	9月3日～	-

※ 水稻作柄安定対策調査ほ（県内 35 地点）調査結果を基に、各地域内で最も早い出穂期に、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測

※ 「ふさのもち」は農林総合研究センター（香取市・山武市・千葉市）実測値から予測

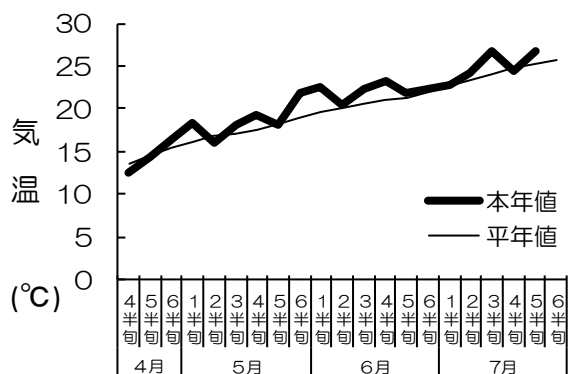


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

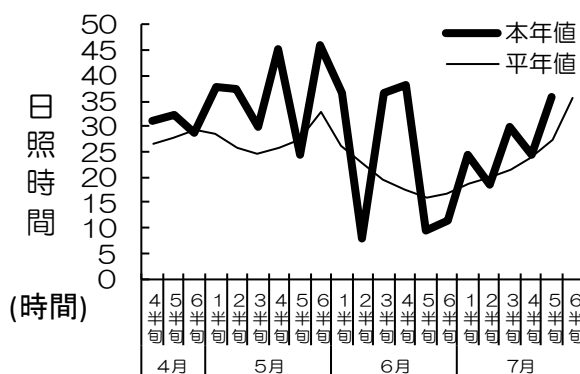


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 乳白米の発生を防止する水管理

7月24日に気象庁から発表された関東甲信地方1か月予報によると、平均気温が平年より高くなると予想されており、乳白米に対する注意が必要です。

○ 出穂2週間後までは湛水管理

出穂期から出穂2週間後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

※自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です。

○ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょう。なお、早期落水は、品質低下を招く原因となるので止めましょう。

■ 斑点米カメムシ類の防除

県の病害虫発生予察注意報（第2報、7月9日付）では、斑点米カメムシ類（特にアカスジカスミカメ）多発生のおそれがあると発表されています。ほ場をよく見回り、適期に防除しましょう。

○ カスミカメムシ類は発見しにくいので注意

アカスジカスミカメ等のカスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所から吸汁し、被害を与えます。ほ場をよく見回り、発生が確認されたら直ちに防除しましょう。

図3 アカスジカスミカメ（成虫）



○ 大型の斑点米カメムシ類の防除適期は出穂15日後頃

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入して産卵します。斑点米の被害は、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

穂揃い後の防除適期は、幼虫発生初期である出穂15日後頃です。

出穂が、周辺よりも早いものや特に遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、注意が必要です。

表 2 斑点米カメムシ類の防除薬剤

使用時期	使用回数	薬剤名
収穫7日前まで	2	エルサン粉剤3DL、エルサンバッサ粉剤 20DL、MR.ジョーカー粉剤DL
	3	トレボン粉剤DL、スタークル(アルバリン) 顆粒水溶剤、スタークル(アルバリン) 粉剤DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤DL
収穫14日前まで	2	MR.ジョーカーEW、キラップフロアブル、キラップ粉剤DL
	4	ベストガード粉剤DL
収穫21日前まで	2	スミチオン乳剤、スミチオン粉剤3DL (出穂前散布は1回)
	3	トレボンMC

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 病害の防除

○ 紋枯病

今年は、幼穂形成期の茎数が多く、紋枯病が発生しやすくなっています。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長しますので、発生が多いほ場では、直ちに薬剤を散布しましょう。

○ いもち病

一部の地域で、葉いもちの発生が散見されています。葉に病斑が多数見られるほ場では、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を直ちに散布しましょう。治療効果のある薬剤は、発生後の早い段階の防除で高い効果が期待できます。

表 3 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	
	いもち病	紋枯病
ノンプラス 粉剤DL/フロアブル	○予防・治療	
ブラシン 粉剤DL/フロアブル	○予防・治療	
バシタック水和剤 75		○予防・治療
バリダシン 粉剤DL/液剤 5		○治療
モンカット粒剤/フロアブル		○予防・治療
モンカットファイン粉剤 20DL		○予防・治療
モンセレン 粉剤DL/フロアブル		○予防・治療

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 適期収穫～良品質米の生産のため適期に収穫しましょう～

収穫は、登熟状況を十分に観察し、帯緑色歩合 15%の時にいきましょう。

(注：帯緑色歩合は生育中庸な 10 株から主稈と思われる茎の太い穂を選び、不稈籾を除いて数えます。図4参照)

なお、収穫期の目安は、出穂期（全穂数の 40～50%が出穂した日）から「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。

早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を 3 時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

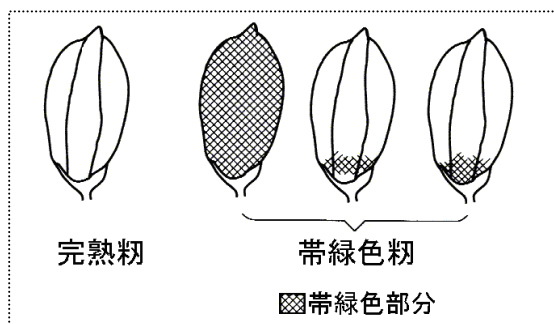


図 4 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、
帯緑色籾として数えます



図5 ふさおとめ（4月21日植え）
農林総合研究センター（千葉市）
成熟期は8月12日と予測

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率 0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は 14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の、籾の温度が高い状態で籾摺りを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてからいきましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚 1.8mm 以上の米はタンパク含量が低く、美味しいお米です。粒が小さい米の混入はタンパク含量を高める原因になるので、選別の網目は、1.8mm 以上にしましょう。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm 以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、籾すり機等をていねいに清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。